

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和6年4月18日(木)に実施した「令和6年度全国学力・学習状況調査」について、かすみがうら市の児童生徒の傾向をお知らせいたします。

【全国学力・学習状況調査の目的】

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図り、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。

【調査の対象】

第6学年及び第9学年の全児童生徒

【調査の内容】

○教科に関する調査

小学校(国語, 算数) 中学校(国語, 数学)

○質問紙調査 学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面などに関する内容



【結果の概要】

各教科及び質問紙調査について、かすみがうら市の結果として特に良かった点と、特に課題が見られた点についてお知らせします。(特に良かった点○, 特に課題が見られた点●)

【国語】

小学校

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」についての設問において、文の中における主語と述語との関係を捉えることについて、正答率を向上させることができました。
- 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについて、概ね満足できる状況です。
- 資料を活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫する場面において、話し手の言葉やしぐさなどにも注意しながら、話し手の考えを受け取ることに課題がありました。

中学校

- 自分の考えが話合いの話題や発言の内容とどのように結び付いているのか、つながりが分かるようにまとめる力がついてきました。
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする問題について、概ね満足できる状況です。
- 目的に応じた内容になっていない解答がみられます。具体的には、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫することに課題がありました。自分の考えが伝わる文章になるように、表現の効果を考えて描写を工夫して書けるように指導していきます。

【算数・数学】

小学校

○〔データの活用〕の領域において、目的に応じてデータを収集し、データを整理する観点に着目して表を用いて分類整理する設問については、概ね満足できる状況です。

●円周の長さが直方体の横の長さになることを捉え、円周と直径、円周率の関係についてあいまいな理解をしている児童もいます。また、球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題がみられます。身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見いだす力が不足していると考えられます。

●速さなどの単位量当たりの大きさの意味や表し方についての理解に課題がありました。速さの意味に基づいて、速さを単位時間当たりに移動する長さとして捉えられない児童が多くみられました。得られた解答について、妥当かどうか確かめることの重要性を指導していきます。

中学校

○方程式を解いたり、二元一次方程式を関数関係を表す式とみて考察したりする場面では、ある文字について解くことの意味を理解し、等式を変形することは、概ね満足できる状況です。

●〔データの活用〕の領域において課題が見られます。複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに、引き続き課題がみられました。特に、目的に応じて分類整理された複数のグラフを比べ、見いだしたことを、他者に分かりやすく表現できるようにすることが重要です。つまり、データの分布に着目して考察し判断したことについて、その理由を根拠を示しながら説明できるような指導を充実させます。

【質問紙調査】

小学校

○普段の1日当たり(月曜日から金曜日)、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間が、1時間未満と答えた児童ほど、正答率が高いという結果でした。

○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」との設問では、当てはまると回答した児童ほど正答率が高く、その割合は、県や国の平均を上回りました。

○道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると回答した児童数の割合が、県や国の平均を上回りました。

●毎日朝食を食べている児童数の割合は、県や国の平均よりも少ない結果でした。

●「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」と回答した児童の割合は、3割未満でした。

中学校

○「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」の設問では、30分未満と答えた生徒の正答率が一番高いという結果でした。ICT機器を使った学習だけではなく、じっくり考えたり、書き表したりする学習もバランスよく実施することの重要性が現れる結果でした。

○「人の役に立つ人間になりたい」と回答した生徒は、98%を超えました。

●学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていない生徒が2割以上で、県や国の割合よりも大きい結果でした。

●学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると感じている生徒数の割合は、県や国の平均よりも少ない結果でした。

【留意点】

※この調査において測定できるのは学力の特定の一部分、学校における教育活動の一側面であり、学力の全てを評価するものではありません。

【まとめ】

※全体的な傾向としては、基礎的・基本的な内容については概ね満足できる傾向にあります。特に、国語では、主語と述語の関係を理解したり、物語全体の概要をつかんだりする力が良好でした。一方、活用することや表現することに課題が見られます。特に、算数・数学では、数量的な関係を理解して、考察したことを数学的に表現する力に不十分さが見られます。ICT機器を活用して、自分の考えを工夫して表現する等の指導の充実を一層図ってまいります。

※小学校は、ゲーム時間が短い児童ほど、国語と算数の正答率が高く、自発的に学ぶ姿勢が良好である傾向が見られました。また、中学校は、自分と違う意見について考えるのは楽しいと感じている生徒ほど、正答率が高いという結果でした。

今後も、学力向上に向けた授業改善に取り組んでいきます。
また、アンケート調査から、家庭での生活習慣や学習の取り組み方も、学力に影響があることがわかりました。
引き続きご家庭でのサポートをよろしくお願いいたします。

